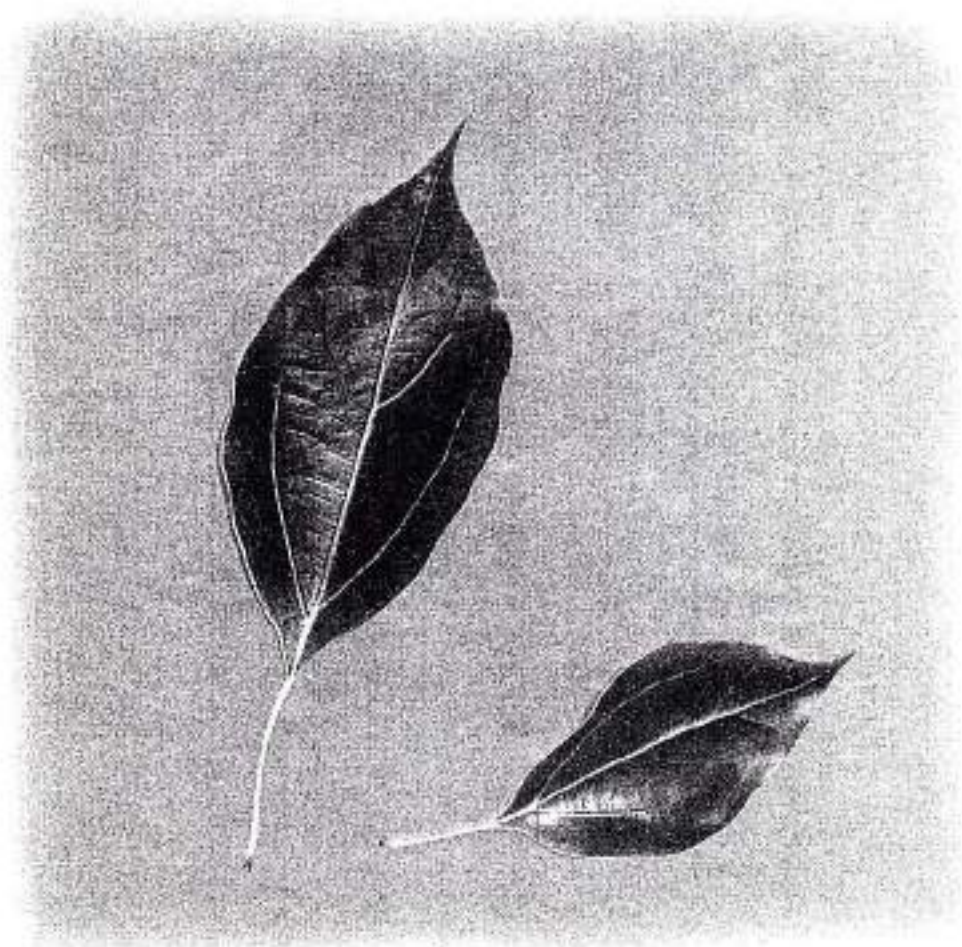


Interpreter Workshop vol.25



府民の森 パークレンジャー 2003

Interpreter Workshop Vol.25

- ・ 拠点活動報告

 - 中部班近況報告

 - むろいけだより

 - くろんど子どもキャンプ

 - くろんど観察記

- ・ おいしくアウトドア Vol.2 なかじい

- ・ ニッポンバラタナゴの

 - 不思議な生態 Vol.4 小西ぱく

- ・ 『元 気』 中村孝子

- ・ 「ボランティアについて」 たけぴー

- ・ パークレンジャー活動

 - 2004 年度に向けて 奥田くま

- ・ 編集後記

中部園地の近況報告です

- ◆ 7月27日(日) 夏休み宿題工作のお手伝いをします
- ◆ 対象 ファミリー
らくらく道を[レストハウス]まで登り、夏休みの宿題工作をします
平野さんのご協力のもとレンジャーも作りました
キーハンガー、ウエルカムボード

参加者 15名

スタッフ
伊藤 谷川 中村
荒川 奥田 高田
(敬称略)

- ◆ 8月31日(日) 夏休み宿題工作のお手伝い PART 2

- ◆ 対象 ファミリー
「らくらくセンターハウス」で
レンジャーだけでやってみよう
キーハンガー、紙粘土で作るハリネズミ 他



この夏は大変暑い日が多くありましたが、中部班の人たちは皆各自の活動や仕事にがんばって
いました、そんな中でのミニイベントでした。

8月31日

夏休み宿題工作の報告
PART 2

スタッフは 伊藤さん、小西さん、私、中村。
会社からは 松島さんが 応援に来て下さいました。

○ I部(午前部) 10:00~12:00

天候が心配されていましたが、良い天気と 9名の参加者が居ました。

キーハンガー 希望者 5名 (男子4名 女子1名)

ハリネズミ 希望者 4名 (男子3名 女子1名)

前から知っていた参加してくる^{おうち}兄妹と、朝の7時から待っていた^{おうち}姉弟と、通りがかりの近所の
男子5人グループ と おこなわれました。つきまの保護者は 全く手伝う気配もなく、私たちスタッフ
におまかせ状態でした。

残暑が厳しく、バテ気味のスタッフもいましたが、子供たちは皆 満足して帰って行きました。幼稚園児
や中学生もいた。特に宿題にこたわっている感じでは ありませんでしたが、工作を楽しんでくれました。

野外でおこなったので、強い日射しと風で 紙粘土が 乾きやすく、「ハリネズミ」のハリが刺しく、
少し時間がかかりました。

○ II部(午後部) 13:00~15:00

1時間程 待っても お客さんが来ず、諦めのかけていた頃に、2名 呼び込み
ました。兄妹と 御両親とでハリネズミを 製作しました。午前中に参加した
親子も 再度 やって来て一緒に 工作しました。午後部は 室内で行いま
した。

★学ぶ、今回 本番には 参加されなかった 谷川さん、材料集めと、ハリネズミ
の試作に力を注いで下さいました。谷川さんの 研究のおかげで 良い作品
が できあがりしました!



むろいけだより



今秋、おろいけ園地にてネイチャーイベント「どんぐりハイク」を行います。

『どんぐりを素材として扱うイベントをおろいけで行う』、ということ年度初めに会社から希望されていたこともあって、今回はおろいけメンバーみんなでプログラムを作っていくところから進めています。6月の班発表ではとくにこのイベントを意識した訳ではありませんが、『どんぐり』をとりあげたことにもなりました。

この「どんぐりハイク」のイベントで『どんぐり』をきっかけとしてビジター、またレジャー自身でもいろんなことに興味をもてたら、と思っています。

という訳でほんの少しですが、某TV番組ではないですが、

『どんぐりトリビア』です。

あなたの「へえ〜」はいくつありますか？

- ◇『ドングリ』という名前の木はない。
- ◇どんぐりのなる木は落葉樹・常緑樹のどちらもある。
- ◇どんぐりの実には1年でできるものと2年かかってできるものがある。
- ◇発芽してもどんぐりの中身はふたばにはならない。
- ◇日本にあるどんぐりの木の種類はおよそ20種類である。
- ◇どんぐりの木はシイタケのホダ木にも使われる。
- ◇縄文人はどんぐりを常食していた(らしい)。
- ◇紀州備長炭が作られる『ウバメガシ』もどんぐりのなる木である。

他にも『どんぐり』について調べていくと面白い気づきがたくさん見つかりました。街路樹としても公園でも見られる身近な素材なので親しみも湧きやすいですね。

☆ スタッフを若干名募集してますのでご協力よろしくお願いします。

その他年内の活動としては、9月28日(日)ミニイベント「秋色さがし」、12月7日(日)「X'masリース作り」(工作館補助)を予定しています。

(2期 にしであきこ)

集まれ！エコキッズ くろんと子どもキャンプ

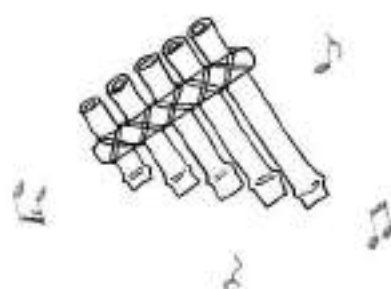
8月23、24日に行われたキャンプイベントのようすを
お知らせします。

9期 なかじい
(中島 弥香)

- **ねらい** 府民の森に親んでもらうだけでなく、将来に向けて自然や環境を守るという意識を持った【エコキッズ】を育てていくきっかけとする。そのため、「自然をいっぱい見つけよう！」「自然を大切にしよう！」「みんなと仲良くなろう！」というテーマを設定。
- **参加者** 小学生 25名 (男子16名 女子9名)
- **スタッフ** 奥田(くまさん) 武田(たけびー) 藤井(ふじさん)
中村(たこちゃん) 森下(みなっち) 荒川(あらちゃん)
中田(たくさん) 中島(なかじい)
杉原(すぎさん) 松島さん 脇中さん

● プログラムの概要

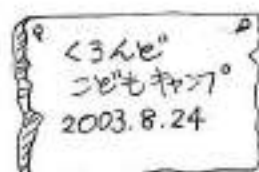
- 1 **アプローチミニオリエンテーリング**
森の入り口広場(私市から歩いて地道になった左側の空き地)でグループ分けをし、キャンプ場までのコースに5ヵ所設けられたポイントに隠された文字を探しながら歩く。その文字を組み合わせた言葉が「班名」となる。
⇒友達と同じ班になれなくてちょっと不満そうな女子が…。
- 2 **樹に関するクイズ・お話**
「世界一大きな生き物は何?」「世界一高い、太い樹はどれくらい?」「樹の寿命は?」「樹の鼓動を(聴診器で)聞いてみよう!」
⇒元気に答えてくれたけど、あまり長い話は評判が悪い!?
- 3 **昆虫観察**
・人工樹液を塗って虫を集めよう。バナナ、砂糖、お酒、酢、黒砂糖を使って樹液を作り、クヌギやコナラに塗り、夜に観察。
⇒カブトムシやクワガタはいませんでした。子ども達はとても気にして何度も見にいってました。
・セミの羽化を見よう。この時期でもまだまだ羽化を見ることができました。
- 4 **ネイチャーゲーム「カムフラージュ」**
範囲を決めて自然の中に人工物を隠し、見つけるゲーム。班ごとに、声を出さず、後戻りなしで何個あるか数えてもらう。
- 5 **竹を使ったクラフト**
細竹を使って、バンブーフルート。
⇒みんな熱心にやりました。
ちゃんと音階ができた子も。
竹コップやお箸を作った子も。



6 記念の寄せ書きづくり

班に1枚の焼き板に名前を書きました。(杉板を下見時に焼いておき、当日磨いてもらう。)

⇒すいれん池の休憩所に毎年飾りたいと思っています。



7 食事作り

- ・夕食(チキンホイール焼き ラタトゥーユ ごはん)

子ども達が自分で作りました。

⇒みんな楽しくがんばって作って残さず食べました。

残念ながら包丁で指を切り、病院に搬送する怪我があり、安全管理が充分でなかったことを反省しています。(本人はその後元気に復帰しました。)

- ・朝食(パン サラダ 飲み物)

野菜を切るだけ。

- ・昼食(おにぎり 豚汁 フルーツポンチ)

子ども達はおにぎりを握り、フルーツポンチを分けました。

⇒楽しそうにそれぞれ色々な大きさのおにぎりを作っていました。

● まとめと反省

- ・ スタッフ不足について

当初なかなかメンバーが集まらず、自前になって何とかギリギリの数がそろろうという状況でした。子ども対象なのでグループリーダーはもちろん本部スタッフもかなりの仕事があり、参加者が定員いっぱい(40名)だったら対応できませんでした。人数不足による細かな不都合は色々あったと思います。応援スタッフの皆さん、有り難うございました。

- ・ プログラムについて

全体としてはうまく流れたと思います。かなりキャンプや自然のことを知っている子どもが多かったように思う。

15分以上話が続けると集中力が切れてくるので、お話には注意!

- ・ 子どもたちについて

ほとんどの子は酷暑ともいえる暑さの中、予想以上に元気に活動していました。過去の参加者に案内を出し、2名の参加者がありました。アンケートを見ると、ほぼ全員が「また来たい」と答えていました。

お礼状に、キャンプ中の写真、リーダーからのコメントを添えて参加者に送る予定。事前、事後の働きかけにより、リピーターを増やしていけたら、と考えています。

とにかくメンバー不足から急遽ヘッドをやることになり、何をテーマにすればよいのか…。はっきりとした展望のないまますすめてしまった感があり、スタッフの皆さんにはご迷惑をかけました。今年くろんどに登るときはたいがい雨で、寒いくらいなのに、当日は猛暑で熱中症などを心配しましたが、子ども達は元気に走り回り、自分達の子どもの頃と全然変わらないなぁと思いました。昨今の少年犯罪とは無縁のように感じるこの子ども達を見て、パークレンジャーのやるべきことも色々あるなぁ…と感じました。楽しい1泊2日でした。 なかじい

- *くろんど園地では6月下旬になって、女の子が見たら誰もが「カワイイイ〜!」と叫ぶネジバナが花を咲かせる。世間相場より少し遅いようだ。しかし7月も10日頃になれば、初夏の令嬢のようなネジバナを含む道端植物園はすべて雑草として刈りとられてしまい姿を消す。花の少ない夏なのだから少しくらいはエリアを定めて奇数な草花を残してくれればと思うのだが…。ところでこのネジバナ、その名の通り小さな花をらせん状に咲かせるのだが、右巻きのものとは左巻きのものがあることをご存じでしょうか?くろんどでざっと調べたら、6対4くらいで右巻きが優勢のようだった。つる植物のつるの巻き方が種によって決まっていることは有名な話だが、このネジバナのらせん方向についてはどのような遺伝があるのかはわからない。ネジバナの向き調査をやったら面白いかもしれない。話は全く変わるが、日本で右巻きといえば下から見上げて見える右巻き(いわゆるS巻き)のことをいうが、欧米では上から見下げて見える右巻き(いわゆるZ巻き)のことをいう。文化背景や、時代や、世相や、人の価値観によりもの見方やとらえ方は変わってくるのだ。
- *くろんどの初夏名物といえばグンジポタルです。雨が多かった今年だけなのか、毎年そうなのかはわかりませんが、園地に置いてあるビジターノートからの市民情報によると、7月中旬まで見る事ができたそうです。北部園地班が観察した6月14日の夜は雨がやんだ直後で月明かりもなく観察条件がよかったということもありますが、100匹を遥かに越える大乱舞!今年見逃したレンジャーの皆さん、最近は高級ホテルや料亭の庭にポタルを放つのが大流行していますが、そんな大金をはたかないで来年はぜひともくろんど園地の天然ポタルを見にきて下さいね。ところでこのグンジポタル、かなり高いところまで舞いあがるのですが、妖しい光に見惚れていると何故か周囲の樹木の高さの所まで行くとふわーっと舞い降りてくる。他の場所にも見に行ったのですが、やはり木の高さまで。偶然そうなのか、川べりの樹木が何らかの影響を及ぼしているのか、見ていてとても不思議に思えるのです。ちなみにグンジポタル、何故か関東産より関西産の方が光る間隔が狭く、かつ深夜まで光り続けているそうです。関西人、いや関西虫はやっぱりせっかちで夜ふかしな奴らだったのです。
- *くろんど園地の初夏で、もうひとつ特筆すべきことがあるとすれば、食べられるおいしい実がたくさん突ること。クマイチゴ、クサイチゴ、ナガバノモミジイチゴ、カジノキ、ヤマモモ…。おいしい、おいしい!甘い、甘い!あまりこの話はしたくないので、この話はおしまい。来年の初夏、くろんどへ来てくれる人には現地でこっそりマル秘スポットをお教えします。ちなみにもうすぐしたら熟すであろうミツバアケビやクリのポイントも見つけてあります。フッフッ。ヒ、ミ、ツ。
- *今年の夏、北部班は2度も合宿研修を自主的に行ないました。1回目は6月のポタル観察、2回目は8月にセミの羽化と樹液に集まる虫の観察。昼も1回目は自然観察したり、アウトドア料理を作ったり、2回目は水質の検査をしたり、野外ゲームをしたり…。いつも気さくな園地の職員さんとも交流しながら、とても楽しい時間を過ごしています。2回目の時は、セミの羽化を見ようと来ているのに、突然の雨。今日はダメか、と思いつつも、あきらめきれずアチコチ探しまわったら、いました、いました。雨が降ってもパークレンジャーのために出てきてくれたセミくんが。縁がかった白い羽をつけたヒグラシが長い、長い土の中の生活を飛び出し、今、殻から抜け出してきたのです。結局発

見したのは6匹ほど。雨の中出てきたてくれたのはヒグラシ君だけでした。神秘的な命の誕生、生まれ変わりの瞬間に僕らは立ち会ったのです。なんかさあ、マジ、それってすごいくない？

*セミの話をもうひとつ。今年の夏は、ほんとに嫌になるくらい雨が多く、でも暑がりの僕にはちょっとありがたく思える涼しい夏でした。そのせいかどうか、くろんどのセミにも異変があったのかもしれませんが。昼間からヒグラシの「カナカナカナ…」が響きっ放し。ミンミンゼミの「ミンミン」が多く聞こえるのに、クマゼミの「シャワシャワシャワ」が全然聞こえない。「ツクツクボウ〜シ、ツクツクボウ〜シ」も8月初旬から鳴き始める。来年のセミはどうなのかなあ。ちなみにくろんど園地では他にハルゼミ、ニイニイゼミ、アブラゼミの声を聞くことができます。

★★さいごに★★

くろんど園地担当のパークレンジャーとして初めての夏。楽しいことはもう数えきれないくらいたくさんありました。たくさんの草花や野鳥や昆虫や淡水魚、くろんど通信を手にとって読んでくれる人、掲示板の前で足を止めてくれる人、ノートに様々な意見や感想を書き残していく人、たくさんのハイカーやキャンパーと交わした会話、続けて観察会に参加してくれた人、園地職員さんや仲間たちとの何げない会話、それにテレビの取材（しかも、なんと美人レポーターと共演！）。でも1つだけどうしても許せないことがありました。ササユリを根株ごと持ち去ったり、タツナミソウの群生を丸ごと盗掘するような人がいたことです。今年はサクランボやウメやメロンなどが全国で大量に盗まれる事件が相次ぎました。自然の神様が1年に一度だけ与えてくれる楽しみを一瞬にして奪い取ってしまうこの悪質な掠奪行為に対して日本人である私は農耕民族の血が逆流する思いがしたのですが、自然がもたらしてくれる楽しみや美しさは独占せずにみんなで共有し未来へ残していこうという日本人が長年培ってきた伝統的な美意識を踏み躪るという意味では同じ行為だと思っています。他にもごみや残飯を撒き散らしたり大騒ぎするマナーのないキャンパーや誰がやったのかわかりませんがブラックバスを放流しルアー釣りをやっている人など、ほんのわずかな人の心ない行為が、自然を愛するほとんどの人たちの楽しみを奪ってしまうことになるかもしれません。自然を根底から踏み躪るこれらの行為を目先の利益に目が眩んだ一個人が行なう、それが結局人間全体の生活へ大きなツケとなって戻ってくる。私たちパークレンジャーは、いまこの国が陥っている社会の悪循環の小さなモデルが、ここにもあることを真正面から意識する必要があると強く思った半年間でした。

楽しく作って、みんなで食べれば、何でもごちそう!

9期 なかじい
(中島 弥香)

まずは今年のくろんどの定番メニューから…

ラタトゥーユ

南仏料理だそうです



う〜ん おいしい!
トマト味はみんな大好き!
子ども達ならソーセージで。

材料 鶏肉やソーセージ

トマト 玉ねぎ にんじん なす トマト缶
赤・黄ピーマン スッキーニ きのこと
にんにく オリーブオイル コンソメ
塩 こしょう ※白ワインがあればGood!

- 作り方
- ・ 厚手鍋にオリーブオイルでにんにくを炒め、鶏肉を炒め、ひと口大に切った玉ねぎ、にんじん、など硬いものから野菜を炒める。
 - ・ トマト、トマト缶、お水も少し入れ、コンソメ、塩、こしょうで味をつける。

ホイル焼き



材料 生サーモン切り身または鶏もも肉

玉ねぎ きのこと レモン
オリーブオイル 塩 こしょう
厚口のアルミホイル

- 作り方
- ・ 玉ねぎは薄切り、サーモンや鶏肉にはしっかり塩、こしょうを振っておく。
 - ・ アルミホイルを二重にし、オイルを塗って玉ねぎを敷き、鶏肉やサーモン、きのをのせてしっかり包む。
 - ・ かまどで5〜8分くらい焼く。
 - ・ レモンを絞って食べる。

※ 厚口のアルミホイルを二重にすればかなり強火でも黒焦げになることはありません。

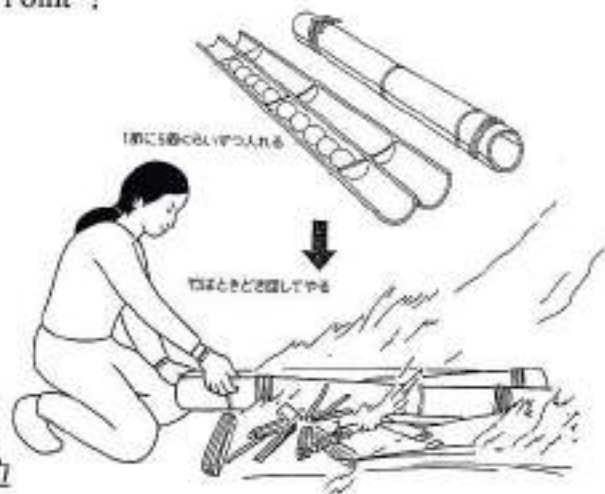
子どもキャンプでもほとんどみんな残さず食べてくれました。
簡単で加熱時間が短いので便利ですよ!

次は、竹を使って野外ならではのCOOKINGにチャレンジ！

竹パン

ポリ袋を使うのが Point !

材料	強力粉	124g	} A
	ドライースト	小サツ 1	
	砂糖	大サツ 1/2	
	塩	小サツ 1/2	
	水	80cc	
	バター	14g	



- 作り方
- ・ ポリ袋にAを入れ、よく混ぜ、水を入れてよくこねる。
 - ・ バターを加えてさらに10分位なめらかになるまでこねる。
 - ・ ポリ袋の口を軽く結び、20分暖かいところで発酵させる。
 - ・ 8個ぐらいに切り分け、丸めてバターを塗った半割の竹に並べて15分位二次発酵。
 - ・ 竹を縛って焦げるくらい火にあぶる。

☆ なかなかうまくできますよ！ラタトゥーユとの組み合わせもバッチリです。ボールやオープンが無くてOK！ ポリ袋に小分けすればみんなで作業ができて、子どもでも失敗しません。

バウムクーヘン

今、なぜか大はやり！？のお菓子ですね。

材料	卵	15個
	薄力粉	500g
	バター	500g
	砂糖	400g

- 準備
- ・ 竹は破裂防止のためにキリで穴をあけ、強火にあぶって、油と汚れをふき取る。
- 作り方
- ・ ボールにバターをクリーム状に練る。
 - ・ 砂糖を加えて白っぽくなるまで混ぜ、卵黄も入れて、よく混ぜる。(A)
 - ・ 別のボールに卵白をあわ立て、(A)に混ぜ、粉も加えてさっくり混ぜる。
 - ・ 竹の芯に生地を塗りつけながら、おき火でくるくると回して焼く。



※ 弱火でじっくり焼くと硬くなってしまいます。

残暑が厳しい中、秋の気配が感じられますね。

前号で掲載予定の[ニッポンバラタナゴ]の放流活動です。4月20日(日)雨のち曇 小雨の中いつもの集合場所[近鉄恩地駅]9時30分、今回の参加者は、トラスト協会の天満さん、[ニッポンバラタナゴ]の提供と指導をしていただいた加納義彦 清風高校教諭、活動当初から参加の土井さん、私の4名が経験者、初参加の3名は広報を見てやってきた村崎さん、亀井さん、ドイツ人のSliwa Ania (アニアさん)計7名です。

今回の作業内容は以前放流した ①[トウヨシノボリ]の生存確認 ②[ドブガイ]の成長確認 ③[ニッポンバラタナゴ]の放流です。

①[トウヨシノボリ]の確認は昨年3月12日の[ドビ流し]の時にはかなりの個体数が見られましたが今回は1匹のみでした、加納先生は条件が違うので一概には言えないが生態が確認できる事から少なくとも[トウヨシノボリ]にとってすめる環境であるらしい。

②[ドブガイ]は昨年10月に沈めたカゴから取り出して大きさ(殻長、殻高、殻幅 図参照)と器具を使い卵の確認(雌雄の確認)をして再度池に静めました。

③[ニッポンバラタナゴ]の放流は、雌雄の確認(雄の婚姻色、雌の産卵管で判断する)、体長の測定をするのですが、大きいものでも4cm、小さいものは2cm位しかなくノギスで測るのもコワゴワです。でもこれでも立派な成魚で、[ドブガイ]にちゃんと産卵します。いよいよ放流です、Aniaさん達と元気に育てよと、雄33匹、雌39匹、不明25匹の計97匹を放流しました。でも問題はこれからだ、と加納先生。

[ニッポンバラタナゴ] [ドブガイ] [トウヨシノボリ]の三者がこの池の環境に適応できれば繁殖する事は可能だが、そのバランスが大事なところ、当然[ニッポンバラタナゴ]を放流する以前から他の生物がこの池で生活している訳で、云わばこの三者は新さん者であり新しい生態系が成り立つかどうかである。また、池の水も夏場にかれることが無いが、水温が上昇しすぎないか等考えればいろいろとクリアーしなければいけない条件はある。はたして人間がそうした環境を作り上げていく事が本当に良いものかどうか私には少しばかり?の部分があります。

昔池がまだ使われていた頃は年に一度池の「底桶」を抜いてヘドロを流す『ドビ流し』をしていました。その時にはヘドロと一緒に[ニッポンバラタナゴ]や他の魚も流されたり、食されていたそうです。(美味しかったかどうかはわかりません)そして注目する点はヘドロ自体も大切な肥料として、自分の田畑へ流す為の権利を買っていたそうです、現在では田畑も少なくなり、田畑に流す事も無く『ドビ流し』自体も行われなくなりました、そして池も使われなくなり放置されたり無くなったりしているのが現状です。

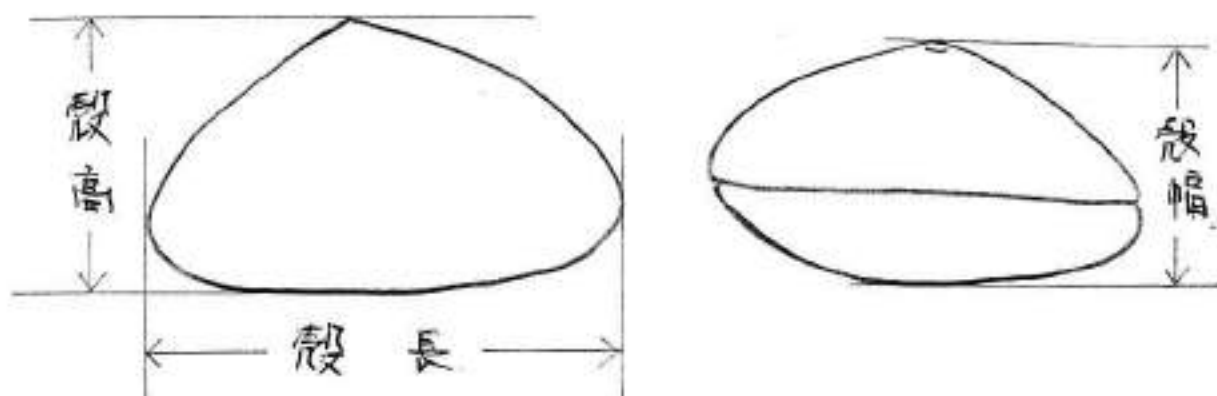
こうして「ドビ流し」を行い池の水を入れ替える事により、富栄養化を防ぐシステムが出来ていたのです。昔の生活のサイクルの中で生物たちが適応してきたものだと思いますが、一旦減った「ニッポンバラタナゴ」は池の中の「ドブガイ」に残された卵で翌年また復活します。「トウヨシノボリ」もまた泥の中で生き残っているのでしょう。

加納先生は「ドビ流し」に変わる循環システムを考えていく必要があると言われていました。「ニッポンバラタナゴ」が絶滅危惧種だから、貴重な生物だからと言って、家の水槽の中で大事に育てる事は本当の意味での「保護」には成らないと思います、昔のように普通に見られるような池や、池の水源地である山、川。もっと広く考えれば村、町、地域全体の産業まで考えた取り組みが必要だと思います。

今活動しているような池が少なくとも20位あれば、ひとつの池で水が枯れたら他の池に移してやれるし、ブラックバス等の放流で全滅しても、一度底掻を抜いて水と一緒に流してしまい他の池から移してやれる、そうした事の出来る環境を増やしていけたらと思います



◆ドブガイの測定



『元気』

5期 中村孝子

この夏は、最近ようやく個人旅行が許されるようになった。ウズベキスタンとキルギスへ行、て参りました。いわゆる観光地とよばれる所はあえて避け、小さな町をバスや車で移動するという旅でした。バスに乗れば皆の注目を浴び、車に乗れば車掌さんたちに親切にしてもらう...という感じで毎日毎日が出会いの連続でした。もはや目的地に行くことが目的ではなく、移動する行程そのものが旅の醍醐味でありました。そんな中で出会った人から、「うちに泊まりにおいて」と誘われ、遠慮せずに泊らせてもらってきました。日本人を初めて見るという近所の子供たちがやじ馬の如くに集まってきました。私は「見せ物」になっていました。でも、こんなに自分に関心をもってもらい、そして親切にしてもらえるというのは幸せそのものでした。

さて、こうして元気をたくさんもらって、子どもキャンプに臨んだわけですが、自分が元気になると、他人も元気にしてあげたくなりました。子どもたちに対して心がけたことは、まずほめること。叱られたり注意されたり、批判されてばかりいると、心がこわばって自信を失ってしまいます。実際私も、数か月前、自信をなくして落ち込んでいた時期がありました。そんな時、あるレンジャーの人から、「タコちゃん面白い」と言ってもらった一言で、結構元気づけられたものです。ほめられたり、認められると、勇気が湧いてきて元気になれるものです。キャンプでは子どもたちに元気をあげているつもりが、逆に自分も又元気をもらっていた気がします。

ウズベキスタンのウズベク人

これからのレンジャー活動でも、レンジャー同志がお互いに元気をわかち合える。そんな関係を築きたいものです。

「馬子も衣装。」
中村がキルギスの民族衣装を着ているのは、あそこ。



「ボランティアについて」

10期 武田敏文

平成 14 年にみどり公社のパークレンジャーに応募してから約 1 年半が過ぎようとしています。正直わけも分らず公社の研修に参加して来たと言うのが本音ですが、今までボランティアとしてのレンジャー活動を通じて私が感じたこと、考えたことを書いてみたいと思います。

私の場合これまでボランティア活動は一度もしたことも無く、レンジャーに応募したのも全く偶然で、平成 14 年の 3 月にたまたまほしだ園地のピトンの小屋でレンジャーを募集と言うパンフレットを見つけてやってみようかと思ったのがきっかけです。

レンジャーと言う名にも何か園地でのハイカー指導と言うか、園地の管理と言うかそんなカッコ良さだけを勝手にイメージしていました。そんなわけですから最初に説明会で聞いた「アジサイハイク?」や「子供キャンプ?」と言う言葉に違和感を覚えながら、「まあええか!」ということで 4 月のなるかわ園地の研修に初めて参加したと言うのが本当のところ。そんなこんなで昨年度は研修には結構参加しましたが、大きなイベント参加としては「くろんど子供キャンプ」だけで余り積極的には園地イベントには出ませんでした。

元々私は 20 歳代の時、社会人の山岳クラブに所属して冬山登山のため毎週縦走トレーニングやロッククライミングと言ったハードなことばかりやっていました。30 歳で結婚して子供ができてからの 10 数年は仕事の忙しさもありほとんど山にも行かなくなり、専ら子供を連れてのオートキャンプやスキーに行くのが私の唯一の自然とのかかわりでした。そして子供の手が離れたこの数年は一人で日帰りのできる山をぼちぼちと又登るようになりました。特に冬の千早赤坂の金剛山には雪を求めて足しげく通っています.....

しかし考えてみると私の場合、山にしてもキャンプにしても結局は自分自身の楽しみのものであり、人と人の関わりや自然との関わりについて考えたことは余り無かったように思います。

私が 50 歳になった時、自分の定年後をどのように生きるかと言う研修に参加しました。その時「60 歳からは毎日が日曜日」と言う話を講師が言っていたのを覚えています。

現役で働いている時は仕事が自分の生活(役割生活)の大きな部分を占めており、山やスキー、キャンプは仕事の合間のリクリエーション(余暇生活)として楽しんでいれば良かったわけですが、さて毎日が日曜日となった時、その時人はどのように生きればよいのかと言う課題ですが、この時は「ボランティア」と言う話は出なかったように思います。

最近新聞の人生相談にこんなのがありました。その人は趣味として好きなゴルフをしたり旅行にも行っていると言うのですが、「年金生活になったら経済的余裕も無くなるしそれもかなわない、そうすると生活が面白くない。さて今からどう生きて良いか分からない」というものです。回答は「貴方は今まで自分の楽しみのためだけに生きてきた。しかしもっと大きな楽しみはボランティアをして人が喜ぶ顔を見ることをすることだ」と言うものでした。

これは人は生き甲斐ややり甲斐無くしては生活できない(役割生活が必要)、また趣味の生活だけに生きることもできないと言うことで、これらを埋めるものが「ボランティア活動」だと言うのです。対価を求めない役割生活つまり趣味とボランティア、あるいは趣味を生かしたボランティア活動、これらが今後我々が豊かに暮らしていくための秘訣だと言うことでした。

特に定年後の人の暮らしを豊かにしてくれる大きな要素だと言うことを知り、私は目のうろこが取れた思いがしました。今までボランティアと言うと何か「人に奉仕」する活動と言うことで余り積極的にはなれませんでした。しかし自分が先ず楽しくなる役割があって、その活動によって誰かが喜んでくれるとしたら、自分も人も楽しめ一石二鳥、こんな両方に得なことは無いのではないかと思えるようになりました。

私達レンジャー活動もまさにそうしたものであると思います。ボランティアとは先ず自分が楽しいことをする、そして人を楽しくさせることをする。これが長続きのこつだと思えます。

まだ2003年度もやっと半ばに差ししかかったばかりなのに、こんなテーマをここで持ち出すのは早すぎるという人もいるかもしれない。でも次年度計画を構築していこうという、いわば基本戦略ということからすれば「次年度まで半年しかない」と考える方が自然なのだ。戦略は行きあたりばったりや思いつきであってはならない。6月くらいまでは研修日程が詰まっていたということもあり、各レンジャーが顔を合わせる機会も多くあったのだが、7月以後は園地別活動が核になったということもあり、レンジャー同志の情報交換の場がなくなっている。しかも最近全体ミーティングの動きがなく、チーフミーティングも行なわれていない。やはりこの手のミーティングは公社主導でなく、レンジャー自らが議長になって開催しないとかなかなかうまく機能しないのだという気がしている。

半年間、新しい体制でパークレンジャーの活動をやってきて、多くの変化が見られ、一応はいい方向へ向いてはきているなという実感はあるものの、反面様々な問題点が顕著になってきているのも事実であり、それをここで一度整理してみる必要があると思う。次年度へ向けてこれらの問題点を繰り返さないためには、今の時点から問題点の実態と原因を洗い出し、その具体的な解決策をレンジャーと公社が一体になって見いだしていかななくてはならない。そしてパークレンジャーの自主活動が本年度からの方針として固まった以上、パークレンジャー自身が自分たちの責任において行なうべきことはきちんと行い、また公社の問題点についてもレンジャーとしてはっきり提言するという姿勢が必要なのだと感じている。

私自身が痛感している問題点もいくつかあるが、とにかく一番の問題は「人不足」ということに他ならない。やっと園地別の活動がそれなりに各班とも一応は軌道に乗り始め、いい方向へ向かおうとしているなか、この問題はどの園地もがかかえる共通した大きな問題になっている。一つの園地に常時体制として4、5人しか集まらないというのでは、やはり実際問題として年間計画に基づいた活動はとりにくい。しかもその少ない人数も確定的な数ではなく、「何とかなるやろ」では無計画な出たとこ勝負のいい加減なものになってしまい、これではレンジャー自身も真の企画・運営力がつかない。やはりまずはレンジャーの絶対数に問題があるのだ。何故パークレンジャーへの応募者が年々先細ってきているのか？みどりいきものふれあい隊と名を変えた募集にも人が集まらないのか？大阪府内のあらゆる公民館や図書館、青少年施設にあれほどのチラシを置いているのに？またせっかく期待して応募してきたパークレンジャーの定着率が悪くなっているのか？この根本的部分は徹底的に原因究明すべきであるのに、公社にその姿勢が見られないように思えるのは私だけであろうか？今こそ在籍パークレンジャーと公社の敷知を結集して、この問題に真剣に取り組まなくてはいけないの時期にきていると思う。同種の既存の団体が様々なルートを駆使して有望な人材を一本釣りですカウトし、しかも現実のニーズに合った手厚い研修を施し、また彼らが共感できる舞台をきちんと用意しようとして努力しているなかで、さらに斬新な切り口を持った魅力的な新しい野外・環境系の活動団体が続々と設立され、今や乱立傾向にあるといってもいいくらいで、環境問題や野外活動に関心のある市民が急速に広がりを見せているとはいえ、その選択肢幅が3、4年前と比べても格段に広がってきているという現実がある。この種のボランティア団体にも今やマーケティング市場があって、企業と同じで、魅力のない活動団体は淘汰されていく—それが現実だ。現実に応募者が殺到し、応募してくる人を受けきれずに人材を選んでいるような自然環境団体・講座がいくつかある反面、頑張って組織を立ち上げたものの理念（口先）先行で実が伴わず、資

金面でも行きづまって人が集まらなくなり崩壊していった団体があることを私は知っている。「チラシの訴求力不足」「何をやるのも遅い対応」「時代の現実的なニーズをよむ力不足」エトセトラ、エトセトラ。パークレンジャーの資質向上などを語る前に問題点は山積みだ。パークレンジャーの理念が素晴らしいとしても人がいないのでは話にならない。“大阪府”のお墨つきというだけでパークレンジャー制度が存続していけるほど世間は甘くない。

私は次に全体会議を持った時、人を集める具体的方策として「複数の園地にまたがる宿泊研修を含む数回の連続講座を主催してはどうか」ということと「パークレンジャーをレギュラーとパートタイムの2方式で応募を募ってはどうか」ということを提議しようと考えている。そんなことを言うと必ず「誰がやるの?」「私はできませんよ。」「無理だろう!」という後向き声が出てくる。私は今までいくつかの野外・環境系団体に関わってきたが、例外なくモチベーションを下げる一人の発言が組織全体の空気の蔓延したとき、その団体は魅力を失い、求心力を失ってゆく。これは経験とか技術とか知識とか、そんな問題ではない。もちろんその人の人間性の問題でもない。ただ単に組織を構成する人、ひとりひとりの「意識」の問題でしかないのだ。パークレンジャーはあくまで「ボランティア」であって「仕事」ではない。その差異についての考え方は様々あるだろうが、少なくとも“お金”が求心力の要素になっているわけではない。むしろ変なことを考えずに、自分を縛りつけてきたワケを取り壊し、脱却するチャンスだと捉えている。主体的な組織は一人一人がそういう意識を持つところからできあがる。人は大人になって社会常識を身につけ、人格の形成がなされればなされるほど、恥をかいて自分が傷つくことや、失敗して自分が築きあげてきたものを失うことを恐れるようになる。私は直接は知らないのだが、「昔のパークレンジャーは何かしようという気持ちをみんなが持っていた。」ということをよく聞く。パークレンジャー制度をゼロから立ち上げた気概と勢いということだけでなく、やはり当時はみんなが若くて「ただ自分の思いをぶつけよう!」という純粋な気持ちが組織の暗黙の総意になっていたからだと思う。恥をかく快感、そこから得られる充足感。それがパークレンジャーに今求められていることなんだと私は思っている。

話をもとに戻すが、連続講座は何らかの技術・経験を持った人たちが7、8人集まってプロジェクトチームを組めたら、決してできないことではないと思っているし、それだけの力量を持った人材は在籍中のパークレンジャーからでも選抜できると信じている。そしてそれは新しいパークレンジャーの加入と在籍レンジャーの定着の両方の効果が見込めるのではないかと考えている。結局はパークレンジャーという制度は「人」にかかっているのだ。

少々毒づいたが、これも私自身がパークレンジャー制度に期待しているものが大きいからに他ならない。例えば民間のNPO団体は個人の持ち出しや団体への寄付金、会費、それに一生懸命駆けずり廻ってやっと得た補助金で維持されている。それに比べて私たちパークレンジャーは資金の心配をすることもなく、必要経費のソロバンをたたく必要もないし、交通費まで頂いて、必要な道具類も基本的には支給してもらっている。活動できる場所も提供していただいている。ハード面での環境は、完全とはいえないものの非常に恵まれていると思う。あとは私たち自身がどうソフト環境を構築していくか?個人ソフトの構築もさることながら、パークレンジャーという組織としてのソフトをこれからどれだけ蓄積していけるか?また組織ソフトの構築と蓄積を妨害する有形無形の力をどれだけ排除していけるか?私には2004年度という1年がパークレンジャーにとって曲がり角になる1年になると思えて仕方がない。

編集後記

最近、忙しい〜。
 パーレンジャー活動のほかにも
 この夏休み「海遊館」「USJ」
 「踊る大捜査線」「ひらパーナル」
 と土日はびりりでした。
 9月は休ませてくれ〜。
 (家出がしたい)くま

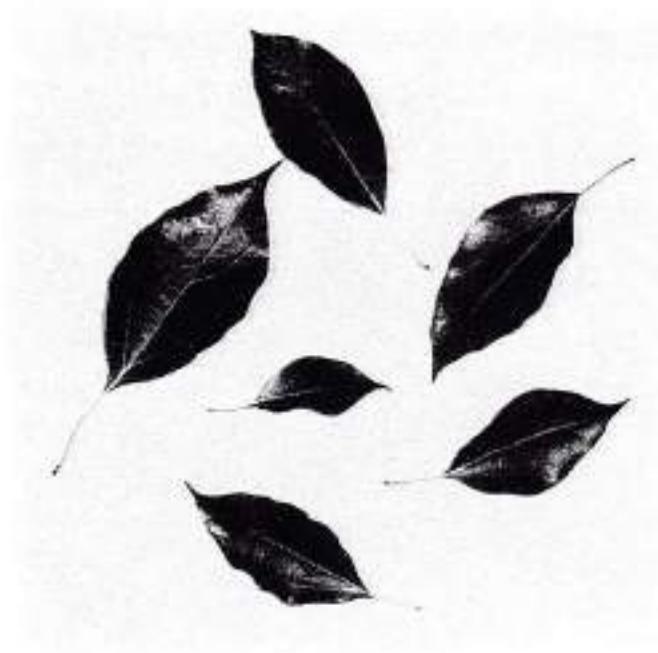
今年も盆踊りで
 浴衣に初挑戦しました。
 時期的にこの頃は残暑キビシ
 はあたたかのに、冷感でしたか。
 今更の残暑に心たれています。
 しかし秋にはイベント等、いろいろ
 控えているので楽しみです。
 みんなを盛り上げていきますー♪
 にしこんちゃん



くろんどの子供キャンプは
 ばてばてでした。
 たけこー

今日9/2は、台風と太陽のこの夏
 いちばんの最高気温でした。
 今年は、本日は涼しいと思っただけ
 後で、ツヤがまわってきたってカンジ。
 これから夏休みだと思ったらいいのにー。
 せなか、美しいリゾートで、ホーッと
 時間を気にせよ。頭のとこから
 足の先まで、エステマッサーシエもい
 たらうたうた... なんて、ちよと
 私には似合おんのかなあ？！
 ども、いつか行きたい。
 たけこー

本日は、ひょうに暑い...
 レンジャーの皆様、
 こんど暑い日は、やっぱり
 飲みに行きましょー!!
 飲みたい人..ご連絡下さいませ。
 飲み会 実行委員会 小西BAKU...



2003. 9. 2 発行